はじめに

南砺市教育長　松本謙一です。

昨年度よりスタートした南砺利賀みらい留学・長期コースは、令和４年３月に、無事１期生１０名を送り出すことができました。修園のつどいにおいて、１年間の成果を大きな声で堂々と語る子どもたちの姿は、キラキラと輝いており、この利賀で立派に成長できたことを改めて実感させられました。

そして今年度も引き続き、第２期生１３名を迎えることができました。

子どもたちはこれから１年間、利賀の大切な子供として学校に通いながら、自然豊かな環境の中でさまざまな体験をしていきます。

利賀での都会から離れた生活は、「不便」なことも多いでしょう。また、集団生活では、「自分の思い通りにならない」という場面もたくさん出てくることと思います。しかし、それら一つ一つが山村留学の学びの場なのです。親元を離れ、豊かな自然の中で仲間と寝食を共にし、様々な自然体験・農山村生活体験を行う中で、「不便」さを乗り越え、「自分の思い通りにならない」ことに妥協点や解決法を見出しながら、本当の「生きる力」を身につけてほしいのです。

そのために、私たち市教育委員会は、学校、地域、保護者、そして関係団体の皆様と気持ちをひとつに、子どもたちを全力でサポートしていきます。

少し見ない間にも、一回りも二回りもたくましくなっていく子どもたち。これからも利賀の子供として、優しくたくましく育ってくれることを願っています。

おわりに、これから１年間大変お世話になります公益財団法人育てる会をはじめとする関係各位に重ねて感謝を申し上げるとともに、子どもたち、保護者の皆様、そして地域の皆様にとって魅力的な事業となりますよう、よろしくお願いいたします。

【 活動カレンダー 】

4月

- ５日　入園のつどい
- ９日　茶碗作り
- １０日　村内散策、受け入れ家庭対面式
- １６日　ふるさとマラソン
- １７日　きのこの植菌

〒939-2516　富山県南砺市利賀村坂上 18　南砺利賀みらい留学センター
TEL：0763-77-4103　　FAX ： 0763-77-4037
MAIL：nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp
WEB：http://www.nanto-toga.com/

４／５　入園のつどい

まだたくさんの雪が残る中、６人の継続生と、新たに７名の新入園生を迎えて第２期の始まりである､「入園のつどい」を行いました。２期生たちは、合掌造りの文化と深いつながりのある「マンサク」の花を持って入場し、それぞれ自己紹介と１年間の抱負を語りました。
たくさん集まってくださった地域の方を前にして､「とても緊張した。」「何喋るかわからなくなっちゃった。」という子もいましたが、２ 期生としての第一歩を無事に歩み出すことができました。
今年度も、よろしくお願いします。

４／９　茶碗作り

地域の歴史文化に触れる体験の一環として、砺波市にある「三助焼」の講師の方に茶碗づくりを教えていただきました。完成した茶椀は毎日の食事に使うため、子供たちも気合が入ります。講師の方の見本では簡単そうに見えても、やってみると穴が開いてしまったり、思うような形にならなかったりと苦戦していました。それでも、「たくさん食べたいから、大きく作りたい！」「この色を使いたい！」と工夫しながら、個性豊かな形の茶碗ができました。焼き上がりが楽しみです。

４／１０　村内散策

２班に分かれ、阿別当・坂上・上畠・細島地区に設定されたチェックポイントを回り、『屋号を３つ聞く』『継続生から新入生へおすすめの絶景ポイントを紹介する』などのお題をこなしながら、散策しました。お題の１つに『春の季語を入れて俳句を作る』というものもあり、歩いていて感じたことやこの日あった出来事を班で俳句にまとめ､「雪とけて道がキラキラきれいだな」「ふきのとう仲間とともにお昼寝中」といった春を感じる句を作っていました。

坂道がとても多く、帰ってきたときには疲れていましたが、初めて歩く場所で、利賀の自然や地域の人とたくさん交流できました。途中で訪問させていただいたお家に地域の人が集まっていたことが一番驚いて、印象に残りました。　（里歩）

４／１０　受け入れ家庭対面式

晴天のもと、１年間ホームステイで預かってくださる受け入れ家庭のお父さんお母さんと初めて対面しました。緊張の面持ちで自己紹介をした後、受け入れ家庭が発表されると、一人一人その家のお父さんお母さんにご挨拶。「うちは○人家族で…」「○○から来たんだっけ？」など改めて声をかけてもらい、ほっとした様子で談笑していました。最初のホームステイは２４日からですが、ひと足先に獅子舞の練習に参加させてもらうなど、早速受け入れ家庭の方や地域の方にお世話になっています。

４／１６　ふるさとマラソン

小学生と女子中学生は 3.0km、男子中学生は 7.6km の部に出場しました。「走り切れるか心配…」「絶対入賞するんだ！」など様々な留学生の声が聞こえてくる中、スタートの合図が鳴ると、勢い良く走り出していきました。レースでは、表彰台をかけて熱い競争を繰り広げる人たちもいれば、自分のペースでコツコツ走る人もいて、みな一生懸命走り、無事に全員が完走しました。走った後には「意外と走るの楽しかった！」「タイムが前よりも上がって嬉しい！」と話していました。

午前は天気が悪かったけど、午後には天気が良くなって、無事に大会で走れたことが嬉しかったです。また、高学年の部で一位を取れたことも嬉しかったです。一位を取れたのは応援があったことと後半に自分が浮いているかのように足が軽くなって、速くなったように感じ、最後まで走り切ることできたからです。最高のふるさとマラソンでした。　（在音）

４／１７　きのこの植菌

日本の山村文化であるきのこの栽培。その体験ということで、しいたけの植菌を行いました。種駒と呼ばれる菌のついた木片を、ドリルで穴を開けた原木に打ち込んでいきます。

最初は、ドリルを持つ手が不安定だった留学生もいましたが、慣れてくると、「次！はい。次！」と木を押さえる人と声を掛け合いながら軽快に穴を開けていきました。

種駒を打ち込み終わったものはセンター裏に運び、日が当たらない場所で一旦置いておき、雪が解けたら地面に伏せて仮伏せの作業を行います。

保護者だより

南砺利賀みらい留学も第二期が始まりました。センターでの生活に慣れ、今年１年何ができるだろうか、どんな風に成長してくれるだろうかと楽しみにしている留学生・親御さんもいれば、これから１年何が起こるだろうか、大丈夫だろうかと不安に思う留学生・親御さんもいるかと思います。かく言う私達もつい１年前までは後者でしたが、現在は前者となりました。これも偏に指導員、ホームステイ家庭のご両親方の愛に溢れるご指導の賜物です。感謝と共に、今年もよろしくお願い申し上げます。

さて、小学生を含む若年者の中では「自分らしさ」とか「人とは違った個性を」とか「自分のやりたいことを」などと言われて久しいですが、実社会では、およそ何をするにも最適化・合理化が望ましい形とされ、まるで人間が社会を動かす歯車の一つになっているように感じる毎日です。

そこで昨年のセンターでの生活や子ども達の様子を見ていると、まさに養老孟司さんの仰る『子どもは自然の中で育つべき』という言葉が実感できます。雪が積もったら靴が濡れないように、転ばないように雪を『避けて』歩くべきでしょうか？いえいえ、留学生は積もった雪の中にランドセルを背負ったままダイブします。合理性なんか欠片もありません。直情径行です。（何事も死なない程度にね）「やっぱこれが答えだよなぁ」と思いながら、口煩い親から離れて伸び伸びと過ごすセンターでの１年を暖かく見守っていきたいと思います。

くま爺のつぶやき・・・

先日、富山や石川の県議及び市議の方々が留学センターに来られた。施設案内の後、山村留学の取り組みについて概略を説明したところ、詳しく知りたいと多岐にわたる質問が。15 分程度が１時間にも及び嬉しい悲鳴となった。「一年間で子どもたちはどのように変わるのか」との質問には少し考えてしまった。山村留学しなくても成長期だから体は大きくなるし、好き嫌いも徐々に改善されるだろうし、子ども個々の特性によって見た目は大きな変化が認められる子もいるけどどのようにといわれても…。みた目にはみえにくいけど心の成長でしょうか。数日前に指導員と二年目の子が個人面談していた時の話を紹介した。『ぼくは努力してるけどうまくみんなに伝わっていないと思うんです。去年の反省から自分から率先して動いているんですが…』と留学生。『そんなことないよ、頑張っているよ、自分のことをもっと褒めなさい』と指導員。山村留学は四季の自然と暮らしの体験から多くのことを学ぶが、他人を見つめ己を見つめる大家族の生活から学ぶことも大きいと思う。がんばれ、ちびっ子たち。

統括主幹　山本光則